

# 第11回我孫子市地域コミュニティ活性化基本方針策定委員会

## 会議概要

1. 日 時 : 平成25年6月23日(日) 9時30分から12時00分
2. 場 所 : 議会棟第一委員会室
3. 出席委員 : 坂口委員長/牛尾委員/荒井委員/金川委員/倉橋委員/  
小林委員/佐々木委員/新保委員/田島委員/多田委員/  
服部委員/早川委員/山家委員/吉村委員
4. 事務局出席者 : 枝村市民生活部長/四家市民活動支援課長/  
杉本主幹/小池主査長/杉山主任/渡邊主事
5. 欠席者 : 石井委員、上村委員、近藤委員、鈴木委員、渡邊委員
6. 会議内容
  - (1) 第2章「地域コミュニティを活性化するために」について
  - (2) 第5章「地域コミュニティ活性化のしくみ」について
  - (3) 第6章「行政の役割について」
  - (4) 地域コミュニティ活性化基本方針素案(第3稿)について
  - (5) その他
7. 会議日程について
8. 傍聴人及び発言者の数 : 傍聴人2人 発言者の数1人
9. 決定事項
  - ・第12回策定委員会(最終回)は6月29日(土)9時30分から12時00分に関  
催。
  - ・第3稿についての細かな意見は事務局に連絡する。

◆議事の内容

●第2章「地域コミュニティを活性化するために」について	
委員	<p>標題が「将来像ではなく活性化するために」ということで、”暮らしやすくするために”という部分とこの作業がちゃんと対応しているかが気になります。話し合うだけではなく、それを解決するところにつながらないと意味がないのではないのでしょうか。</p> <p>高齢化、人口減少がある中で持続可能な地域コミュニティの仕組みをつくるということになっているので、その文章に対応するかたちで、もうすこし文章を補足したほうがいいのではないのでしょうか。</p>
委員	それについては、第6章の仕組みに詳しく書かれるので、ここは入りとして、この程度でいいと思います。
委員長	「この仕組みを作っておくことが求められます」のところに互いに取り組むことがあるといいのではないかとのご意見と解釈してよろしいですか。
委員	作業部会でも、もっと具体的な内容について書いたほうがいいのではないかとこの話になったが、これはあくまで基本方針として考えかたを書くことを押し出した形にしました。
委員	第2章は、イメージや雰囲気について書いたものです。ここで市民と協力していくと書くと、抵抗も出てきてしまので、ソフトなかたちで書いたほうがいいと思います。
委員	ここは、始めの部分だからこそ重要だと思います。課題を共有していくというイメージは沸くが、それだけでいいのかなという印象を持ちます。後を見ればいいのですが、人によって捉え方は違います。少し気になったので申し上げました。
委員	文章はこれでいいと思いますが、図の地域コミュニティの視点に関するそれぞれの要素が独立しているように見えてしまいます。図の真ん中に「地域コミュニティ活性化」という要素を加え、一つひとつの地域コミュニティの要素から「地域コミュニティ活性化」に向けて矢印が向いているような図にすると、ビジュアル的に分かりやすいと思います。
委員	これでわかりやすくなったので、賛成です。

委員	図の前に行政は「地域にあったコミュニティづくりを支えていきます」という文章がありますが、それは、その地域にある団体についても地域の特性に合わせるということを意味していると思います。団体についても地域の特性につながっている部分が多いと思います。各団体が地域特性に沿った形で色んな活動をしているという捉え方をすると、それらの団体の活動が「地域の活性化」につながっているような図にするのが分かりやすいと思います。さきほどのご意見は、そのような関係性がとても見えやすいので、私は賛成です。
委員	行政も同じ立場として矢印でつなげたほうがいいのではないのでしょうか。
委員	行政が全体を包括する形で、同じ矢印をつなげるのではなく、この地域と行政の矢印でいいのではないのでしょうか。
委員	私も賛成です。別個で書くと、またちがう誤解が生じると思います。行政は全てを網羅する形で支援するという意味ではこの位置がいいかと思います。
委員	枠の中に「地域コミュニティ活性化」を書いて、その枠の外に行政がくるのはよくないのではないですか。
委員	さきほどのご意見のイメージが沸かないので、何かホワイトボードなどがあれば、大きく図を書いていただけませんか。
委員長	それでは、事務局の方はご準備をお願いいたします。その他、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。
委員	地域コミュニティの活性化というのは、今ある地域コミュニティを元気にするというのも大きな課題だと思います。しかし、今回の基本方針はもっぱら各団体の横の連携が中心になっている気がします。一応いろいろな文章の中には、今ある地域コミュニティを元気にするというようなことは書いてあるのですが、既存のそれぞれの団体を活性化させるための文章を別個で書き、それらの地域コミュニティをさらに進めていくには、団体間の連携が必要であるということを明確に打ち出す必要があるのではないのでしょうか。
委員	いまおっしゃられたことは、ごもっともだと思います。

	第2章の「さまざまな主体が役割を發揮できる地域」の部分が、今は「互いに理解し、つながる」としか書いていないので、ここに「既存の団体が今ある団体が本来の力を今以上に發揮する」などの説明を補足するのはいかがでしょうか。
委員	文章の冒頭に、既存の地域コミュニティを活性化して、それとともに連携するという文章にしたほうがいいのではないのでしょうか。
事務局	今回の策定過程で、既存の団体の課題として、担い手不足の問題が大きいということがわかり、まずはみんなが既存団体の活動に参加するというのが重要であると考えています。その部分については「誰もがそれぞれの立場で参加できる地域」というところを受けているので、既存の団体の活性化について書いていないわけではないと考えています。
委員	書いていないと言っているのではなく、既存の団体を活発にすることが基本だが、それに加えて横の連携もとらないと対応できない時代にきているというニュアンスにしたらどうかということです。
委員長	そちらのご意見に関しまして、「さまざまな主体が役割を發揮できる地域」の部分の一行目に「既存の団体を活発にする」ことについて入れ、二行目に「地域で活躍する団体がお互いの立場を理解し、つながる」としたらどうかというご意見でしたが、いかがでしょうか。
委員	そもそも順番がおかしいのではないかと申し上げます。この文章を見たときに、それぞれの団体を活性化することを最初に書かないで、つながることがすぐに前に押し出されているのがおかしいと思います。既存の団体について記述したあと、さらに横のつながりを見直すことが重要であるともっと大きく打ち出すように書くべきではないかと思えます。
委員	私も意見賛成です。そのように書いたほうがわかりやすいと思います。
委員	地域のさまざまな個人や団体がそれぞれの立場で活動を進めています、というような文言を入れたら良いのではないのでしょうか。

委員	この2章は大テーマを書く部分であって、既存の活性化について細かく必要はないと考えています。第3章に既存の団体について大きく書いているので、この内容については、このままでいいと思います。
委員長	時間がないということで、この文章でいいと考える委員は挙手してください。それでは大半なので、このままの文章とします。それでは、さきほどの図についてはいかがですか。
委員	この図で、地域コミュニティと行政が別個になっているというイメージを持たれると困りますが。いかがでしょうか。
事務局	行政が地域に関わらないわけではないので、地域が主体となってやり、それを支え連携していくのでこのままでもいいのではないかと考えています。また、地域を単位としたものと行政がつながるという意味も含んでいます。
委員長	行政は本来各団体ともつながっている矢印があるわけですが、それらをひとつにまとめて表現しているのはいかがでしょう。
委員	今ある図のままであれば問題ないと思っています。ただ、中に地域コミュニティ活性化を入れてしまうと、おかしくなるという意味です。
委員	地域全体の枠の下に天秤のお皿のような図を入れ、その下から行政が支えているというような図にするのはいかがでしょう。
委員	官民一緒に地域問題を解決しようということであれば、支えるより活性化の中に行政が位置づけられる必要があると思います。
委員	文章にはいろいろ書いているので、図はこのままでいいのではないのでしょうか。
事務局	いただいたご意見を参考に第2章の図を修正します。
委員	この図は、仕組みを書いているわけではありません。本来は、この図において行政が出てくるのもおかしいのです。これは、あくまで地域コミュニティのイメージ図です。
委員	それでは、以前の議論に戻ってしまいます。今回の検討

	の前提は、行政とのタイアップだと思います。
事務局	以前の会議で行政の立ち位置がないということで、このように文書を修正し、図に入れ込んできたので、この図から行政を抜くことは想定していません。
委員長	それでは、これらの意見を踏まえ、事務局に任せることとします。
●第5章「地域コミュニティ活性化のしくみ」について	
委員	地域会議はないよりはあったほうがいいと思いますが、団体には自分たちのエリアがあるので、ここまでの団体を集めるには行政が集めるしかないと思います。
委員	具体的な部分は詰めきれないのが実際です。そこで、付帯意見を入れて出したらいいのではないのでしょうか。また、参考事例の二つ目の内容は分かりやすいと思いますが、第3章でもこのような題で文章を書いているので、異なる内容を他で書かないほうがいいのではないのでしょうか。事例の題名を「高齢化の見守り」としたほうがいいと思います。
委員	「高齢化の見守り」では意味合いが狭くなってしまうのではないのでしょうか。
委員	分かりやすさという意味では、高齢者見守り活動という名前にし、事例として出したほうがいいと思います。
委員	各事例の標題のレベルを合わせたほうがいいと思います。
委員	モデル地区をやっていって検証しながら進めるので、基本方針に付帯意見を入れる必要はないのではないのでしょうか。
委員	私は、いまだにこの地域会議がまちづくり協議会と対立するものになってしまうのではないかと懸念しています。素案にまち協は地域の調整役を担うことは難しいと断定していますが、それが実態なら仕方ないと思いますが、元気のいいまちづくり協議会がそういう機能を持つというなら、それを母体に作ったらいいと思います。体制が望めないところは試験的に作ってみて同じような目的を果たせるような柔軟性があつたほうがいいと思います。他にも、会議が増えると日程調整が大変だと思いますし、役割を担う人の層の薄さを考えると課題はあると

	思います。
委員	付帯意見を書くというのは、どこに書くイメージですか。
委員	付帯意見をどこに書くかはわからないので、あるべきところに書けばいいと思うのですが、この基本方針に付帯意見をつけないで出されると、いかにも団体の代表である私たちが何の心配もなく自信を持って提案しているような印象を受けてしまいます。実行するにはいろいろな懸念事項があり、それらは課題として残っていることを、策定委員会として認識していることを書いたほうがいいと思います。
委員	いまだに、実現できそうなイメージになっていないとは思いますが。
委員	私は最初からこの全ての団体が集まることは想定していません。もっと身近な集まりから、だんだんと発展し連携が取れるイメージで考えていましたが、そのような認識でよろしいですか。
委員	私もその意見に賛成です。
委員	この基本方針は、こうあってほしい方針を示したものです。大切なのは実際に地域会議のような活動が動き出すことであり、それを地域会議という名前にするかどうか、地域の実情で決めればよいと思います。
委員	このイメージ図を出されると、大変な印象を持つので少し工夫したほうがいいのではないのでしょうか。
委員	行政として、この地域会議を位置づけているのかを知りたいです。地域の問題を相談するときに総合的な受け皿が欲しいということなのではないのでしょうか。テーマ別にやればよいので窓口として地域会議が欲しいということなのではないのでしょうか。
事務局	イメージとしてはさきほどのご意見と一緒にです。団体名を出すのかどうかという議論も作業部会の中で出ましたが、最終的には組織の名称を入れることになりました。
委員長	これは最終目標の図なので、それを文章として書くなどの工夫を行うことで、誤解のないようにすればよいのではないのでしょうか。
委員	地域会議の目標イメージとするのはいかがでしょうか。具体的に地域会議を立ち上げるのかについては、知名度

	がないところがやっても広がらないので、行政と既存の活躍している団体のネットワークが母体になるのではないかと思います。課題解決についても、関係の深い団体がやっていくのかもしれませんが、情報発信については関係のない団体にも行っていくことが重要だと思います。かなり難しいことなので、今すぐにやりたいという団体が出てこないと思います。事務局の方で、今回の基本方針の概要版を出すということなので、それらを使った宣伝活動も今後行われると思いますし、それらの活動を通じて、徐々に進めていけばいいと思います。
委員	この団体の中に、消防団増やしてもらえませんか。
事務局	基本方針は考え方を示すものです。詳細については、今後行政の方でマニュアル的なものをつくっていきます。
委員長	できれば付帯意見は付けたくないところが個人的な意見です。できる団体が担うという言い方が曖昧だと思います。
委員	モデル地区一つか二つでスタートし、行政に入り込んでもらい、様子を見ながらマニュアルを完成させていく話し合いになっています。
委員長	付帯意見を入れなくても、具体的な説明を入れるかたちで対応するなどの意見出ておりますが、いかがいたしましょう。この件について、作業部会で話し合いますか。
事務局	作業部会を開くことが難しいので、部会長と副会長で議論していきます。
委員	行政との関わりの部分のところの、「行政も（仮称）地域会議に、必要に応じて参加していきます。」の文章はありますか。
事務局	必要があれば、参加するという文章です。
委員	行政の方には、ぜひ参加していただきたいです。
委員	どんなに小さなものも、地域会議なのだというイメージを持てるような工夫が必要ではないでしょうか。
委員	これだけの団体を集める事務局というのは、かなり大変なことだと思いますし、相当エネルギーが必要だと思います。先ほど、副委員長の方から、できることからはじめればいいというお話と関連しまして、現在布佐地区で実際にやっているのは、布佐地区にある4校の先生方と



	自主防災組織連絡協議会が一緒になって定例会を開いており、地域の学生をいかに守るかという視点で進めて、挨拶運動などの活動をしています。その他にも小中高の生徒、防犯関係の人間、学校の先生で安全マップをつくる活動をやることにしています。このような、どんなに小さな活動でも、モデルとして取り上げることがいいのではないのでしょうか。
委員長	テーマごとに事務局を設けることはできないのでしょうか。
事務局	テーマごとに事務局を設けるのは、複雑になるので難しいと考えています。
●地域コミュニティ活性化基本方針素案（第3稿）について	
委員	この基本方針の位置づけはどうなっているのですか。
事務局	市に提出する策定委員会の素案という位置付けになります。
委員長	第1章の文章のボリュームが多くなってしまっているようですが、第2章の位置はこれでよろしいですか。
委員	委員長の問題提起は、わかりやすくするために、章を動かしたほうがいいということでしょうか。
委員	市の資料として使うのであれば、あまりこだわらなくていいのではないかと思います。ただ、市民に向けての説明資料なら、結論が先に来て、後から説明のほうが分かりやすいと思います。
事務局	概要版、パンフレットを作成するので、そちらは分かりやすい言葉を使ったものにしていきたいと考えています。
委員	私としては、4章の後に2章を持ってきて、背景⇒課題⇒分野の取組⇒第2章とするのがいいと思っています。ただし、それでは前提部分が多すぎて、結論がこれだけかという印象をもたれてしまうと思います。
委員	ポイントを置き、興味のあるところを読んで頂くので、頭を重くしてもいいのではないのでしょうか。
委員	4章の後に2章でいいとも思いますが、コミュニティの定義が出てくるのが遅すぎると思います。
委員長	定義を「策定にあたって」に入れてしまうのはいかがですか。

事務局	現状を1章に書き、目指すべきものを第2章、それを受け具体的な取り組み等を第3章、4章で地域の取り組みの参考を載せ、5章で仕組みという流れを考えています。
委員	第2章があっさり終わってしまう印象があります。
委員長	時間もございませんので、多数決をとらせていただきます。このままでよいという策定委員の方は、挙手をお願いいたします。それでは、基本方針の構成はこのままとします。それでは、アンケート結果を付けるかどうかに関してはいかがでしょうか。
委員	このアンケートは、他のところに公開するのでしょうか。
委員	載せたほうが親切だと思いますが、第3章の内容と乖離しているという意見が出てくると思います。
委員	70ページは多すぎると思いますが、地域で議論するきっかけにはなると思います。
委員長	アンケートをつけるかつかないかは、事務局に任せることとします。
●会議日程について	
事務局	最終策定委員会は6月29日（土）9時半から12時に決定。